

乙隊

乙隊機密第五五一號

高木千歳艦長電訓

明治廿年八月廿五午五時半
於佐世保英艦出帆云

一、對馬八軍令部長ヨリ九ノ電訓ヲ受ケ先發セリ

十五日鹿兒島縣知事ヨリノ電報ニ依リ八一昨

日麻兒島ヲ發シ昨夕大島ハ入港沖繩

九弘長ノ直話ニ昨十四日午前五時半屋久

島燈臺ノ南約三十五海里ノ沖合ニ約六海

里ヲ隔テ三本烟突一本檣籍旗不明ノ軍艦一

艘西ヨリ東ニ航行スルヲ認メタリト言フ員官ハ千

歳來着ヲ待タズシテ津輕海峡ニ急行ス

二、津輕海峡ニ急行シ對馬ニ會シ前電訓ノ

如ク行動スヘシ但シ千歳及對馬ハ一隊ヲナサス海

峽ノ西側ニ置キ無線電信ヲ連絡シ峽警運動

スルヲカムヘシ

第二艦隊司令長官上村彦之丞

機密第五九〇号

一、本職ハ聯合艦隊司令官ニ訓令
氏生第二艦隊司令官ニ訓令
明治廿七年八月廿五日午後六時半
於此世傳旗艦出雲

ケタリ
ヲサツドルニ教艦ノ破白スルハ事實無根ナリ上海
ハ「アスコリ」ト及「駆逐艦」一艘ナレハ第四戦隊ハ其
全部ヲ遣ルニ及ハス適宜見計ヒ可成速ニ派遣
セヨ

二、貴官ハ右訓令ニ基キ常磐及第四戦隊ノ二艦ト第十五
艦隊トヲ率ヒ上海方面ニ急行シ「アスコリ」トノ處分
ニ就テハ直接大本營ノ訓令ヲ受ケ任務ニ服ス
ベシ

第二艦隊司令官上村彦之助



電文状

發信人 軍令部長

受信人 長官 似て可なり

八月五日午後六時十分

訓令第一号ニ準ジ本軍我カ艦隊上海ニ入リ露國軍艦・対空ニ當テオ田カ
 艦艇等ト交際シ外交上ノ步調ト軒輊云々如キノキリ期スレ特ニ上海
 及其附近ニ於テ進ヲ露國中ニテ要ス如キハ有害世益多ク深ク留意
 スル要ス

乙隊機密第五五三號

瓜生第二艦隊司令官ニ訓令
明治七年八月十六日
茲佐田保旗艦出雲

一、本職ハ大本營ヨリ九ノ電報余令ヲ受ケタリ

十六日午前九時十五分細谷司令官ヨリ哨艦鎮遠ヨリノ無線

電信今朝七時四十五分敵艦隊旅順港口ヲ出テ續

テ八時十五分敵艦隊ハ南下スルモ如シ各望樓ヨリハモ

ヤ、為港外見エス敵艦隊ノ総數未ダ分ラス我艦隊

ハ全部今未明ヨリ封鎖配備ノ位置ニ在リト依テ瓜

生隊ハト先上海派遣ヲ取止メ直ニ朝鮮海峽ノ警戒就

カシムベシ

ニ、貴官ハ現麾下ニ属スル艦艇一常艦ヲ欠クコト率ヒ急速對州

方面ニ赴キ同方面ニ現在スル艦艇ヲ併セ朝鮮海峽ニ

於ケル監視ノ任務ニ服スベシ

第二艦隊司令官長官上村彦之助



乙 隊機密第五五四號

第一艦隊命令

明治廿七年八月十七日
旅尾崎灣旗艦出雲

一 旅順方面ノ敵艦隊ハ依然港内ニ在リ
二 艦隊ノ脱出ニ関スル八月十六日ノ情報ハ其ノ后細谷第三艦隊司令官

ノ報告ニ據リ事實無根ナルコト明白トナレリ

膠州灣及上海ニ遁避シタル敵艦隊ハ武装ヲ解クモノ

ノ如ク、ノビツクハ屋久嶋ノ南方ヲ通過シ迂路ヲトリ浦

汐港ニ赴カントスルカ如シ而シテ千歳及對馬ハ之ヲ要

撃セシカ為津輕海峡ニ向ヒ正ニ急航ノ途ニ在リ

浦汐ノ敵艦隊ハ八月十日第一及第四戰隊ノ猛撃ヲ

受ケリテリツクハ沈没シ他ノ二艦ハ大ニ損害ヲ受ケ

浦汐港ニ向ヒ遁走セリ

二 第一艦隊(對馬ヲ欠ク)ハ旅順及浦汐艦隊ノ再撃ニ對

シ對馬海峽ヲ警戒スヘキ任務ヲ有ス

三第四戰隊(對馬ヲ欠キ早及日本丸ヲ加フ)ハ先ノ要領ニ從ヒ
 海峽監視ノ任ニ當ルモノトス其ノ實施ニ關シテハ代
 生司令官之ヲ定ム可シ

哨區名	哨區位置	哨艦數	記	事
A	四二二地点 四二四地点間	一	B及C哨艦ヲ出スモ時機隨時ニ	
B	三二〇地点 三四〇地点間	一	ヲ命ス	
C	二〇七地点 二三四地点間	一若クハ二		

四水雷艇隊ヲ二合シ申隊(矢島中佐之ヲ指揮ス)乙隊(笠岡中
 佐之ヲ指揮ス)トシ甲隊ハ第九、第十七、及第十九艇隊ヲ以テ
 乙隊ハ第十、第十五、及第十八艇隊ヲ以テ編制シ先
 ノ要領ニ從ヒ海峽監視ノ任ニ當ラシム
 其ノ實施ニ關シテハ各隊指揮官之ヲ定メ報告スヘシ

哨区名	哨区位置	哨艇ノ数	受持隊名	記 事
D	鴻島 大湾口間	夜間三艘 昼間八艘以上	甲 隊	一、二日間交代トス 二、甲隊及乙隊指揮官ハ校議上ニ 等艇一隊以上ハ常ニ尾崎灣 クハ竹敷存其部ハ常ニ尾 崎ニ在ランナルコトナカセン
E	神崎 若宮島間	夜間四艘 昼間八艘以上	乙 隊	

五尾埼及竹敷在泊中ノ諸艦中田鐘式ヲ有スルモノハ常ニ十海里ニ對スル汽力ヲ保蓄シ其ノ他ハ日速力ニ對スル汽鐘ヲ埋火シ他ハ至急点火用意ヲナシ置クベシ但シ諸艦艇ハ常ニ出港準備ヲ整ヘ置クヲ要ス哨艦勤務中ノ諸艦艇ハ常ニ総鐘ニ点火シアルヘシ六尾崎灣在泊ノ諸艦ハ毎夜約六直ノ哨兵ヲ配備シ警戒スヘシ但シ防禦網ハ特令アル場合ノ外展張スルニ及ハズ

七、湾口警戒、為毎夜仮装砲艦一隻ヲ出シ番拜以順
 序ニ依リ湾口監視、但ニ當ラシム第三戰隊ノ諸艦
 ハ尤ノ如ク所要ノ人員ヲ出スヘシ

- 一 拜砲艦 出雲
- 二 拜砲艦 吾妻
- 三 拜砲艦 常磐
- 四 號砲艦 磐手

此警戒ハ八月十八日夜ヨリ開始ス

八、警戒急信拜地區信拜其他警戒急信ニ関スル諸諸信
 拜ハ従前ノモノヲ襲用ス

第三艦隊司令長官上村彦之丞



乙隊機密第五五五號

山生第二艦隊司令官訓令
於明治三十七年八月廿九日
本職ハ本十七日午後八時大本營ヨリ左ノ訓令ヲ
受ケタリ

(一)上海ニ通ケ込ムル露國ニ軍艦ノ処分ニワキ清國官
憲ノ申出ニ對シ露國方ハ始メ上海在泊ハ其
權利ニシテ決シテ清國ノ中立ヲ犯スモノニ非ラ
スト主張シ然ラハ直ニ武裝ヲ解除スヘキトノ
申込ニ對シテハ彼ハ更ニ主張ヲ變シ航海ニ必要ナ
ル修理ヲ了リ次第出港スヘシト答へ現ニ或後
理ニ取掛リツアルモノ、如ク彼ハ免角曖昧ノ
裡ニ時日ヲ遷延セシメトスルモノト認メラル依
テ我ハ此際兵力ヲ以テ彼カ壓迫ヲ試シンヤ

貴官ハ等巡洋艦一隻六三等巡洋艦内一若クハ

二隻及水雷艇二隻ヲ上海方面ニ分遣ス

(二) 上海ニ在ル露艦二軍艦處分ニ對スル帝國政府

ノ方針ハ曩キニ訓令第一號第一號ニ示セ

ル通リナルヲ以テ今遣艦隊指揮官ハ田切

總領事トノ連絡ヲ保チ遣艦先ナキヲ期スル

ヲ要ス

二 貴官第四戰隊ニ艦及常艦及十五艦隊内ニ隻ヲ率リ

上海方面ニ急行シ大本營訓令ヲ趣旨ニ遵ヒ機宜ノ

運動ヲ執ルヘシ

但シ右露國艦處分ニ關シテ直接大本營訓令ヲ受ク任務

服スヘシ

三 貴官以行動中必要ニ應シ艦ヲ常艦若移スルヲ得

第一艦隊司令長官上村彦之丞

乙隊機密第五五號ニ

吉松常磐艦長ニ訓令

三十七年八月廿七日午時
於尾崎湾旗艦出雲

瓜生司令官上海方面ニ對シ行動中其ノ艦ヲ

同司令官ノ指揮下ニ屬セシム

第三艦隊司令官上村彦之助



乙隊機密第五五號ノ三

笠間第十五艇隊司令 訓令

三十七年八月廿九日
於尾崎港演習中

瓜生司令官上海方面ニ對シ行動中由員官其

ノ隊ニ隻ヲ率ヒ同司令官ノ指揮下ニ入ル可

シ

第三艦隊司令長官上村彦之丞



乙隊機密第五五四號三

瓜生司令官上海方面作戦行動中乙隊機密第五五

四號命令中第三項及第四項ヲ尤ノ如ク定メ之ヲ

實施セシム

三日水丸高千穂千早ヲ哨艦トシ當分A哨艦ノ之

ヲ出シ左ノ順序隨ヒ交代監視ノ任ニ當ラシム

哨艦順序

高千穂	千早	日本丸	
		A	19
		A	20
	A	飯	21
	A		22
A	飯		23
A			24
飯			25

香港丸十七日午後三時長嶋ヲ發シ當地向ヒワアリ入
港セハ全艦ヲ加ヘ井上全艦長ヲシテ右要領ニ遵ヒ

之レカ實施ノ任ニ當ラシム

A哨艦運動要領

A哨艦ハ天明尾崎(竹敷)発速カニ四二四地点ニ直
 航シ午八時迄哨區ヲ游弋警戒シ其レヨリ三三五
 地点附近ニ西航シ更ニ四〇地点ニ向ヒ翌天明今地点
 アルヘシ爾后右要領ニ準ヒ運動シ翌天明再ヒ四四
 〇地点ニ達シ午前九時迄今地点ニ止リ間接ニ運送船
 航路ヲ擁護シ夫ヨリ歸着スヘシ

注意事項

哨艦ハ常ニ全速カニテ運動シ得ヘキ準備アルヲ要ス
 沖之島望楼ニハ直接竹敷ニ海底電信ヲ通セリ
 吳ノ一艇隊ハ下ノ関ヲ根標トシ夜間ハ角島沖ノ
 島ノ間ニアリテ警戒ス

四 水雷艇隊ヲ甲乙二隊ニ分チ甲隊(矢島中佐之ヲ指揮ス)ヲ第九第十九艇隊(第十五艇隊ノ鷺鶴ヲ加フト)レテ乙隊(下村中佐之ヲ指揮ス)ヲ第十七第十八艇隊トシ左ノ要領ニヨリ海峡ノ監視ニ任セシム

哨艇ノ位置	哨艇ノ數	受持隊名	記
<p>乙</p> <p>神崎 間 荻島 間</p>	<p>乙</p> <p>夜間ハ覆 昼間ハ隻上</p>	<p>乙 隊</p>	<p>三層間展 指揮官 望不良ナルトキハ各隊 臨機哨艇ノ數ヲ増ス</p>
<p>力</p> <p>鴻島 間 大湾 間</p>	<p>甲</p> <p>昼間ハ隻上 夜間ハ隻上</p>	<p>甲 隊</p>	<p>一二日間交代トス 揮官ハ雷艇隊ノ一部ヲ 常ニ九ハク尾端ニアラシムル様カムヘシ</p>

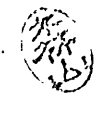
明治三十七年八月十八日
第二艦隊司令長官上村彦之丞

標信旗一旒

乙隊機密第五五八號
左ノ警急信號ヲ加ヘ當隊限リ使用セシム
明治三十七年八月十八日
第二艦隊司令長官上村彦之丞

使用シ得ヘキ現在砲一門ノ平均殘
餘彈藥概數ヲ示セ
但シ之ニ答ルニ右舷ニ八寸砲左舷ニ
六寸砲ノ彈藥數ヲ示スモノトス

参
電
報



電文訳

於 廣崎

発信局 東京

着信局

発信人 軍令部次長 要信人 所生るる者

発信時刻 八月十六日午五時廿分 受信時刻 八月十九日午五時一分

電報種類

一昨日電報セルニアスヨリ、修理に付、秋政府の台の小口切紙了すニモ、如ク訓令に当切之ヲ上出、道基の思慮セリ
アスヨリ、修理に付、中並カク文
録に對し、併スル概論上、必要欠ラカ

ラサニ船渡マ城上其致討力ヲ面潰ス之是
ル也トト認ムク然テ如ク他理ヲ許スハ後者ノ
中ニ立義勸ノ相突レサレ身ニ付テ他理ハ
能ク反駁例ニ穿是れ彈穴獲ル他理
正止ノ且他理期ヨリ之ヲ二三口ニ減スル
正者ト認ム就テハ如ク極ニ急道事
申シ且法外ニテ有テ拘ル久露極各軍紀
對シ其計善シ如ク他理ヲ許シ右ノ其致討
力ヲ回潰多ク許ス之極テ常ニ政府ハ
自ラ相為下儀元手段ヲ殊ニハク是レヨリ生
後果ヲ就ク一切善シ任セサレ由殿ニ声取セらん

ニクロソウライニ対シテハ十七日附小田切艦領事ノ
報告ヲ得タリ尤ノ如シ

上海道臺ハ外務部ヨリ尤ノ電訓ヲ受取リタヘ旨

密ニ語シテ

露公使ハ駁逐艇ヲ修理ハ六日内ニ終ルコトヲ

告ケタリ尤ノ日毎過后ニ三時間以内ニ出港セサ

ルトキハ武装ヲ解カシムルヲ修理ハ許ス外セ

云々

右六日何日ヨリ地集ルカノ道臺ヨリ遷訓

云々

三外波中艦ハ右二程南分方ニ在ラスハ

川合より更々家近便より上海に向て出立

候

四、貴友が後出港候に於ては必ず貴友の

貴友がトウラフに到着ノ際上海帝京の

より文附せしめ申す

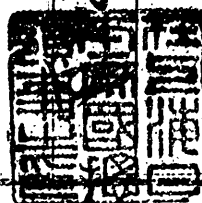
雜機密第四號

別紙、電報本日午首。時十五分
外務大臣より接交政候旨右及傳
傳達以教具

明治廿七年八月廿日

在上海

小田切義壽



氏生司合官殿

正二五十一八總領事官

八月廿九年八月十五日着

左通軍令部長より瓜生司令官へ傳達方依
頼アリタリ

貴官に勉め艦隊碇泊地は清國領海以外に
外に撰定し極力必要なる場合に於ては其故
又上海に船艇ヲ進メザル可と清國中並
規則に左一項アリ

西交戦國ノ軍艦及運送船が若し清國
ノ或同一港内に碇泊せん場合ニ其後より來
着せん艦は先着艦ノ出帆後翌日一昼夜ヲ
経過し清國海軍指揮官の命令ヲ俟

九月二日軍令部長發電

第三軍ハ死傷病ノ多數ヲ生ジ且ワ障礙致之ヲ告ゲ
クル等ノ故ニ時旅順進撃手ヲ中止シ目下其兵力ノ補充ニ
勉メツアリ旅順口ノ敵艦隊ハ依然港内ニ蟄伏シ活動ノ
模様ナシト雖モ彼ハ高擧海ヲ勉メツアリ形勢愈々迫
スルニ至ラズ更ニ脱出ヲ斗ルニ無キヲ保セヌ捕獲艦隊ニ就
テハ近來聞ク処ナキモ蓋シ彼ハ修理ヲ急行シツアル可ク
丸ノカケ止ハ既ニ其修理ヲ終リタルノ報アリ又ヤナシハ
此本根ニ在リ我政府ハ外交手段ニ依リ其始末ヲ佛國政
府ニ要求中ナリ聯合艦隊ハ旅順口封鎖ヲ勵行シ又オニ
艦隊ノ主力ハ依然朝鮮海峡ニ在リテ整え被シ香港九日
本丸ハ第壹海峡ニ向テ航進ノ途ニ在リテ千歲ハ佐世保軍
艦ニ五番ハ舞鶴軍艦ニ於テ各艦急修理ニ着手

海軍

セントス麦友の浪米(高千穂内)一隻ヲシテ便直
朝鮮海峡ニ護衛ヲセシムラシ

九月一日軍令部長發電

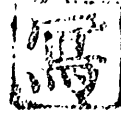
我聯合艦隊

我聯合艦隊ハ依然港内ニ駐屯伏在モ高千穂外
ノ掃海ヲ新念セザルモノ、如ク浦端艦隊ニ就テハ其後
聞ク之ナシト仰ヤサレハ尚ホ此根柢ニ在リテ武裝解除ニ
決定スルハキツシ艦隊未ダ東向ノ途ニ上ラザルモ波シハ蓋
該準備ヲ勵行シツ、アルノ報アリ、我聯合艦隊依然旅
順口封鎖ヲ強行シテハ艦隊ハ朝鮮海峡ニ在リ而シテ
我駆逐艦數隻ハ外ルニシ及佐世保ニ在リテ航路至
樺太閣修理ニ着手シテハ九水雷艦隊ハ旅順方面ニ
前進ス麦友ノ便直艦下艦艦ヲナシテ其地ヲ棄テ朝

海軍

鮮海峽ニ復歸スベシ但シ内ニ得ル限り我航隊ノ上
海方面ヲ去リタルコトヲ秘密ニ保ツテ要ス

海
軍



電文記

發信局 長嶋

着信局

發信人 聯合艦隊 長友

着信人 長友

發信時刻 八月廿日午 前 三時 分
着信時刻 八月廿日午 前 五時 分

電報 種類

空電ノ為ニ確ナラサレモ今急電報ラシキ
モノシ感ズル故直ニ出及ニ其隊モ可成速
前電訓ノ配備シ就ケ

(参考) 前電訓トシテ第四艦隊ナシ艦隊上海ニ行クニ千歲行馬ノ
津村海峽ニ派遣スルニ他ノ艦艇ニ朝鮮海峽ニ下リ

機密第三號

本日午迄三時廿五分外務大臣より別紙ノ
電報接受致小百回大臣ノ訓令ニ基キ右貴
官迄及此通知候敬具

明治廿七年八月十四日

在上海總領事 宙切壽



帝國軍艦先任艦長殿

明治廿七年八月十四日



八月十五日午後三時廿五分接電

上海總領事宛

小村大臣

帝國軍艦貴地ニ入港セバ直ニ左ノ通り該先任
艦ニ通知セラルベシ海軍々令部長ヨリ左ノ通り聯合艦
隊司令長官ハ訓令ヨリ上海港内ニ入りテ敵艦ニ
對シ軍事行動ヲ取ルルハ更ニ何令ノ命令アル迄
見合サレムベシ

正三六四一六總領事官



乙隊機密第五九號

毛利高千穂艦長訓令

廿年八月十九日午前九時
於尾崎灣旗艦出雲

一、載仁親王殿下御乗舩因播丸明二十日字品出

糸柳樹屯ニ向ヒ明后二十一日午前七時頃六連島附

近ニ至ル豫定ナリ

二、貴官ハ明二十日夕刻出港六連島附近ヨリ裏長山

島ニ至ル間右御乗舩ヲ護衛シ任務ヲ終リ次

第急速尾崎灣ニ歸港スヘシ

第三艦隊司令長官上村彦之丞

司令官

奉 詔



聯隊機密第一〇四七號
尤ノ件傳達ス

但シ還納スキ一号徹甲榴彈ハ内地帰港前便宜還納ス
明治三十七年九月一日

聯合艦隊司令長官東郷平八郎

官房機密第一二七六号

士尹安砲及八尹速射砲ハ当令内鍛鋼榴彈若ハ

一号徹甲榴彈ヲ使用ニ目下借用中ノ一号徹甲榴彈

ハ此際還納セシムル様取計フ

明治三十七年八月二十三日

海軍大臣

聯合艦隊司令長官 宛

乙隊機密第五七〇號

乙隊機密第五七〇號

毛利高千穂艦長訓令

明治廿七年八月廿六日
於尾崎灣旗艦出雲

一、對州金山間海底電線小茂田ヨリ三〇哩並ニ

金山港ヨリ教湮ニケテ故障アリ大北電信

會社船ヨリバシフィツク号ハ右修理ノ為ニ本月二

十五日午後上海沖ヲ出帆セシト云フ

右ヨリバシフィツク号ハ二櫓ニ烟突ニシテ速力約十乃至

十一節ナリ

二、其艦ハ明早朝出艦シ右電信船ヲ發見シ電

線修理結了后迄左舷ヲ監視ス

第二艦隊司令長官上村彦之丞

乙隊機密第五七一號

三須第二艦隊司令官訓令 三十七年八月廿五日午前十一時半
於尾崎灣旗艦出雲

貴官ハ艦手ヲ率ヒ急速佐世保ニ回航入渠

艦底塗換並ニ談工事ニ要スル時日内ニ完

成ニ得ル諸般ノ修理ヲ施行セシメ可成速

ニ尾崎灣ニ歸航ス可シ

第二艦隊司令官上村彦之丞

原長巻

乙隊機密第五七四號

井上香港丸艦長ニ訓令三十七年八月廿一日午後五時半於尾崎濱旗艦出雲

一、或ル中立國船舶ハ今尚宗谷海峡又ハ津輕海峡ヲ經

テ浦汐方面ニ密航シツテルマノ形跡アリ貴官ハ明

二十九日出艦日本北ヲ率ヒ若シ必要アラハ舞鶴軍

港ニ於テ諸準備ヲ整ヘ北海道北西岸ニ至リ同方

面ノ警戒ニ任シ主トシテ宗谷海峡ニ注意スヘシ

二、貴官北海道方面出動中ハ小樽若クハ函館ヲ根據ト

シ常ニ望楼ヲメシ大本營ト直接連絡ヲ保持シ

且津輕海峡方面警戒ノ任ニ當レル我軍艦水雷

艦ト相策應スルヲ要ス

第三艦隊司令長官上村彦之丞

乙隊機密第五六九號

福井千早艦長ニ訓令

明治廿七年八月廿六日
於尾崎灣旗艦出雲

由員官ハ安平丸ヲ護衛シ便宜蔚山及松島
ニ至リ左記ノ任務ヲ了リ歸途竹辺灣ニ立寄
リ同望樓ノ近狀ヲ視察シ之ヲ報告スヘシ

一、蔚山角望樓建設地ノ撰定

二、同角望樓建設人負及材料ノ陸揚

三、松島望樓建設人負ノ引揚及同望樓奠ノ陸揚

第二艦隊司令長官上村彦之丞

乙隊機密第五九號ニ

安平丸監督官ニ訓令

明治廿七年八月廿六日
於尾崎灣旗艦出雲

其船ハ望樓建設材料等ノ輸送等ニ関

シテハ福井千早艦長ノ指揮ヲ受ケ進退ス

ベシ

第二艦隊司令長官上村彦之丞

乙隊機密

乙隊機密第九七三號

矢嶋第九艇隊司令

訓令 三十七年八月廿五午
於尾崎灣 旗艇出頭

貴官（以際其指揮下）在（一）等水雷艇二隻宛

ヲ交互（以際）修理工場ニ於テ入渠艇底塗換ヲ

施工也（以際）同時ニ必要ナル汽機汽罐ノ修理手合

施行セラル

但可成速カニ竣成スルヲ要ス

第三艦隊司令長官上村彦之丞

乙隊機密第五七五號

高木千歳艦長ニ訓令

三十七年八月廿九日午後四時五分
於尾崎灣旗艦出雲

其艦ハ明三十日佐世保ニ廻航入渠艦底塗換汽

罐内部掃除並ニ談工事ニ要スル時日内ニ完成

シ得ル諸般ノ修理ヲ施行シ可成速ニ尾崎灣ニ

歸航スヘシ

但シ右工事ニ要スル見積日数ハ佐世保着ノ上至

急報告スヘシ

第三艦隊司令長官上村彦之丞

乙隊機密第五七六號

藤井吾妻艦長

訓令 三十七年八月二十六日
於尾崎灣旗艦出雲

其艦ハ九月一日早朝出艦佐世保ニ到リ入渠

準備ヨナシ長崎ニ廻航入渠ノ上艦底塗換並ニ

談工事ニ要スル時日由ニ完成シ得ヘキ諸般ノ修

理ヲ施行シ可成速ニ尾崎灣ニ歸航スヘシ

第二艦隊司令長官上村彦之丞



瓜
子
屋

乙隊機密第五八一號
春日丸ノ無線電信艦船名畧符号ヲ
左ノ如ク定メ當隊限リ使用セシム

春日丸 K L

明治三十七年九月二日

第二艦隊司令長官上村彦彦

瓜生月夜

乙隊機密第五八三號

第二艦隊命令

明治三十五年九月三日
於尾崎灣旗艦出雲

當分ノ内高千穂千早對馬ノ三艦ヲシテ相互ニ
交代シ哨戒勤務ニ服セシム
毛利先任艦長ハ尤々要領ニ據リ之ガ実施ニ任
シ其方法及交代順序等ヲ規定シ之ヲ報告ス
ヘシ

一、哨艦ハ敵ニ對シ警告戒スルノ外殊ニ中立國船
舶ノ行動ニ注意シ疑シキ者ヲ發見セハ相
當ノ手段ヲ執ルヘシ

二、哨區ハ三八二地真ト四四一地真ノ間トシ
哨艦ハ常ニ此間ヲ遊弋シ時々沖ノ島
望樓ト通信連絡ヲ執ルコトニ注意スヘシ

三、一哨艦、勤務ヲ三日間トシ交代ノ為メ哨區
ヲ去ル時間ヲ午前九時トス
四、警急信号地區信号等ハ従前ノ通りトス

第二艦隊司令長官上村彦之丞

三号第二艦隊命令、要領に依り服務を行
動及心得等、然らば四戦機密第一八〇号命令
令に依ルヘシ

高千穂艦長毛利一兵衛

乙隊機密第五八七號

河瀬第九艇隊司令 訓令

明治卅五年九月五日
於尾崎灣旗艦出雲

貴官ハ其部下全部ヲ率ヒ速カニ第三地
真ニ回航シ直接聯合艦隊司令長官ノ
指揮ヲ受クベシ

第二艦隊司令長官 村彦之丞

九月三日

乙隊機密第五五四號ノ五
 當分ノ内水雷艇隊ノ海峡監視配備要領ヲ
 左ノ如ク改メ明六日ヨリ之ヲ實現施セシム

哨區名	哨區位置	哨艇ノ數	隊名	訃事
E	D			
宮島間	口灣ノ間	晝間三隻以上	甲隊先任司令官之ヲ指 <small>上ノ哨艇隊ノ指揮官 及オチ其艇隊</small>	一二月間交代トス 三層間展望不良ナルキハ各隊 指揮官ハ臨時哨艇ノ數増 スベシ
神崎ト若	晝間三隻以上	乙隊先任司令官之指揮ス	三甲隊ハ其ノ隊ノ部ヲ成スベク尾 崎ニアラシムル様努ムベシ	

注意

一各隊指揮官ハ哨艇日割等ヲ定メ之ヲ報告ス
 ベシ

二第九艇隊ハ本日ヨリ哨戒勤務ヲ止メシム
 明治廿七年九月五日於尾崎灣旗艦出雲
 第三艦隊司令長官上村彦之丞

高千穂機密第三七号ノ三

乙隊機密第五八三号ノ二ヲ以テ浪速ヲ哨艦ニ加
ヘラレタリヲ以テ高千穂機密第三七号ノ本年令中
哨艦順序ヲ左ノ如ク改ム

九月
三日 四日 五日 六日 七日 八日 九日 十日 十一日 十二日 十三日 十四日 十五日 十六日

哨艦	對	高	浪	對	以下以順序ヲ
馬	令上	令上	令上	令上	謀返ス
名	早	高	速	馬	

明治三十七年九月五日於尾崎灣

高千穂艦長毛利一兵衛



乙隊機密第五八三號ニ

乙隊機密第五八三號哨艦ニ関スル余

令中自今浪速ヲ加フ

明治三十七年九月五日

於尾崎灣旗艦出雲

第二艦隊司令長官上村彦之丞



乙隊機密第五四號六
 乙隊機密第五四號五
 水雷艇隊海峽
 監視配備表中隊名欄
 於ケル甲隊艇

第十五艇隊、第九艇隊及第十艇隊

明治三十七年九月八日

於尾崎灣旗艦出雲

第二艦隊司令長官上村彦之丞



乙隊機密第五九三號

吉松常磐艦長訓令

廿七年九月八日午前十時半
於尾崎灣旗艦出雲

其艦ハ本日午後出艦佐世保ニ到リ入渠ノ上艦
底塗換並ニ該工事ニ要スル時日内ニ完成シ得
キ諸般ノ修理ヲ施行シ可成速ニ尾崎灣ニ帰航
スベシ

第二艦隊司令長官上村彦之丞